

第8代、柳川会長の時代

松前氏辞任により、文部省元管理局長で参議院議員の柳川覺治氏が第8代（法人・第3代）会長に就任した。

柳川氏は就任直後、創立40周年記念式典を京都・都ホテルにおいて挙行し、学士会の本部が京都に位置することの重要性を再認識しようと呼び掛け、今後の方針として必要な事業は継続して確実に実施することにより組織の拡充を一步一步推進し、21世紀に向かって何を為すべきかを真剣に考えようと決意を述べた。その手始めに翌昭和62年（1987年）、事業推進委員会を設けて本会事業の重要な問題を討議した。

- ①国際交流の促進、
- ②社会及び国家への貢献の推進、



第8代会長
柳川覺治氏



創立40周年記念式典

③学会・会員の親睦・研修

と、以上の三つの基本方針を立案し、既存事業を継続しながら、事業内容の改善を図ってきた。

講演会・会員研修会は、九州地区では博多において梅原猛氏を招き地元商工会議所、各放送局と新聞社の後援の下に約300名の聴衆の参加を得たことを始め、札幌パークホテル、東京の私学会館、京都の都ホテル、或いは京大会館などに多くの著名講師を招いて講演会を開催した。この中には欧米・中国からの招待講師も含



昭和63年11月 梅原猛先生講演会（於・福岡）



昭和64年 九州地区会員研修会にて
須藤真志氏(博多都ホテル)



平成元年 新春文化講演会にて永井道雄先生

をもって発刊50周年となったが、編集内容の向上を目指した結果、全国各大学からの寄贈申込みが増加した。

アカデミア賞の授与は平成8年度現在まで第72回に及び、在野の埋もれた人材の発掘に努めてきた。学術文化部門では京都大学医学部名誉教授畠中正一氏のエイズ等レトロウイルスを中心とする分子生物学的研究など有益な研究に対する顕彰を実施（アカデミア賞の授与）、さらに、人間国宝になられた備前焼の藤原雄氏もアカデミア賞受賞者の一人であり、学術・文化・教育・芸術・産業の各部門から選出された。



沖縄支部設立記念講演
講師 草柳大蔵氏

まれている。湾岸戦争の勃発やソ連の社会主義体制の崩壊など世界情勢の激変があり、日本の国際的責務を問う声も高まり、テーマに国際問題がよく扱われた。

学術新報「アカデミア」は170号

■ 沖縄支部の設立

平成5年10月29日には、真栄城徳佳氏を中心として沖縄支部が設立され、その記念式典には評論家の草柳大蔵氏を招き、盛大な支部設立記念式典を挙行した。

以後、沖縄支部（初代支部長：山内啓邦氏、第二代支部長：大鶴正満氏、現支部長：狩俣眞彦氏 沖縄大学教授）は年2回の講演会、懇親会の活動を続け、会員相互の知的交流活動を開催している。



平成5年10月19日 沖縄支部設立記念式典



平成5年12月 沖縄支部文化講演会

■ 会館の建設

平成4年2月には、創立45周年記念事業として発足以来の懸案であった会館建設事業計画が実施され、多くの会員の協力が実り、旧事務局跡地に斬新なスタイルの建物が完成した。これを契機に、会の全面的な活動構想を再検討するとともに事業規模を漸次拡大、高度情報化社会の急展開に対応する情報提供機関（シンクタンク）としての機能の充実を図るため、国際交流、生涯教育、環境、医療情報、等の各委員会を設置するなどの改革を進めた。



平成4年2月 会館建設・地鎮祭



平成4年11月18日
創立45周年記念式典と会館落成記念祝賀会

■ 国際交流事業

（日本語普及事業の推進）

とりわけ、国際交流事業の推進を本格化し、平成5年11月北京において中国国際交流協会と協約を結び、翌6年10月陝西教育国際交流協会と共に催し、京都府、京都市、京都新聞、京都外国语大学の後援の下に西安市において「第1回陝西省大学生日本語弁論大会」を実施、優勝者2名と引率者を翌年春に日本に招待した。その後毎年10月に開催、平成8年には第3回大会を



平成7年 第2回陝西省大学生日本語弁論大会



平成7年10月9日 中国国家教育委員会・朱開軒主任（大臣）を表敬する柳川会長と本会代表団（北京にて）

開催し、向こう3年間の覚書を更新した。本大会を推進してきた本会の国際交流委員会は、平成7年10月には26名の訪中代表団を組織し、嶋久男理事長を団長に北京、洛陽、西安、上海を歴訪し、北京では北京大学と国家教育委員会(現、教育部)を表敬訪問した。中国側からは朱開軒閣下(文部大臣)を始め幹部多数が代表団を出迎えた。柳川会長からは島村宜伸文部大臣の親書が朱開軒閣下に手渡され、その夜、北京人民大会堂で晩餐会が催された。このあと代表団は西安における第2回弁論大会開催に赴いた。

(その他の国際交流事業)

また、平成8年9月に来日したドイツ・ベルリン自由大学(ゲルラッハ総長)と、日独留学生交換協定に調印し、国際化社会に向けた本会学術振興のヨーロッパへの展望を図らんとした。

第9代、西島会長の時代と創立60周年を向えて

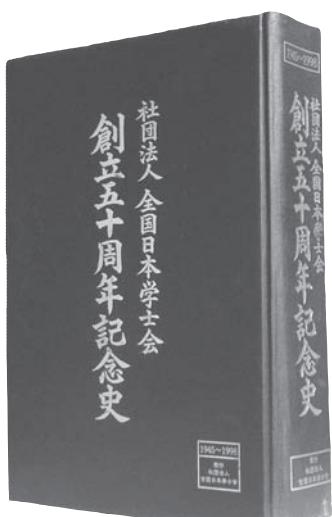
平成8年、創立50周年式典において、柳川会長は次期会長として西島安則・元京都大学総長を指名し、「ACADEMIA」の会旗を演壇上で渡した。京都に設立され、本部を京都に置き、久方ぶりの地元・京都大学出身の会長が就任されたことを役員会員一同は歓迎した。



第9代会長 西島安則氏

創立50周年記念史の発行

平成10年、創立50年記念史編纂委員会(委員長:西島安則会長)は3年の歳月を経て、本会創立からの詳細な記録史・記念史を発刊した。記念史は、第一部:戦後の50年と全国日本学士会の足跡、第二部:歴代会長の時代を語る、第三部:アカデミア賞受賞の人々、第四部:全国日本学士会の活動、第五部:資料・編集後記、の構成で編纂され、960頁に及ぶものとなった。平成10年11月には盛大な発刊祝賀会を京都で開催した。



創立50周年記念史